

ISO9001:2015 認証機関



日本認知症ケア学会認定施設

岡山ひだまりの里病院 広報紙
第136号

2026年7月発行
発行責任者 藤田文博



ひだまり

笑顔の花が咲く

「元気っこ保育園」との交流が再開！



コロナ禍以降中止していた「元気っこ保育園」の園児たちの慰問が、再開することになりました。再開したのは4月30日。デイケアではカレンダーに印をつけて、指折りこの日を楽しみに待っていました。

待ちに待った当日、デイケア内には子どもたちの元気な笑顔とかわい声が響き渡ると、利用者さんの目尻の下がり、自然と口角は上がります。子どもたちが「〇〇さん」と可愛らしい声で名前を呼ぶと、利用者さんは「はい！」といったとは違う優しい返事。一緒にラジオ体操をしたり、お遊戯を見せてもらったりするうちに、子どもたちは「おじいちゃん」「おばあちゃん」とすっかり仲良しに。お膝にちよこんと座り、顔を見て微笑み合う温かい光景が広がりました。

さらに、子ども同士のお相撲も披露されました。真剣勝負で、応援も「がんばれ！がんばれ！」と熱が入ります。お膝に座っていた男の子が負けて大泣きで帰ってくると、Aさんはしっかりと抱きしめ優しくあやし、Bさんは男の子の手を握って「ようがんばった！」と全力で褒めて励ましていました。

優しく、暖かい表情を見せてくれたのは、子どもたちのおかげです。今後は月に1回の頻度で慰問してくださる予定です。子どもたちからたくさん元気をもらい、たくさん笑顔をお返ししたい、一緒に楽しい時間を紡いでまいります。

作業療法士 三浦麻衣子

2階病棟

梅雨の晴れ間に笑顔咲く！
「深山公園への外食レク」

梅雨入りして間もない6月9日、天気的神様が味方してくれたような爽やかな晴れの日、2階病棟では「外食レク」に行ってきました。訪れたのは玉野市にある「深山公園」です。2年前にも訪れた思い出の場。そのときはコロナ渦のため、青空の下でお弁当をいただきました。

今回はお店の中で食事を楽しむことができました。患者さんは様々あるメニューからお刺身や天婦羅など、食べたいものをご自身で選ばれ、久々の外食に舌鼓を打たれていました。

食事前に公園内をのんびりと散策。白鳥や鯉に餌をあげながら、病棟ではなかなか見られないイキイキとした表情を見せてくださいました。その表情で私たち職員は癒され「企画してよかった」と感じる、穏やかで特別な時間となりました。

介護福祉士 文屋 理恵



3階病棟

青空の下、五感で味わう季節の訪れ

今年も病院の中庭に、色鮮やかな紫陽花の花が咲きました。6月の月上旬、普段外出する事が難しい患者さんと一緒に、中庭を散歩しました。

前日まで降り続いた雨はやみ、当日は青空。そよ風が吹くとても心地良いお天気。外に出ると、「おお、気持ちいいなあ」「トマトがなってる」「緑がきれいじゃなあ」と、皆さまざま思い思いに素直な気持ちを言葉にされ、咲いている紫陽花へ愛おしそうに手を伸ばされていました。

中庭では、たくさんのお花や野菜を育てています。それらを観賞しながら、おやつに水ようかんをいただき、心も体も満たされ、季節を身近に感じる大切な一日となりました。

介護福祉士 高畑 嘉子



4階病棟

笑顔とはぐくむ季節の野菜

「ひだまりファーム」の輪

「ひだまりファーム」は元々、職員の有志で始めた小さな畑活動でした。それが今では、畑仕事が好きなお患者さんたちも加わり、みんなで季節の野菜を育てる賑やかな場所に成長しています。

水やりや草取り、苗植えから収穫までを患者さんと一緒に行う時間は、自然と会話が弾み、笑顔がこぼれるひとときです。畑に出るのを心待ちにされている患者さんも居られ、



「畑の様子はどう？」と気にかけてくださる声もあります。

土に触れ、心地よい風や季節の移り変わりを感じる時間は、良い気分転換になるだけでなく、生活の中での「役割」や「やりがい」にもつながっています。また、私たちスタッフにとっても、病棟では見られない患者さんのイキイキとした新たな一面に出会える、大切な機会となっています。

ひだまりにお越しの際は、ぜひ「ひだまりファーム」へお立ち寄りいただき、すくすくと育つ野菜たちをご覧ください。

看護師 稲垣 絵梨奈

認知症の『あんな話・こんな話』

新しい認知症治療薬について 「レカネマブ」「ドナネマブ」



医師 本田 肇

2023年12月に「レカネマブ」、2024年11月には「ドナネマブ」という新しい認知症治療薬が発売されました。いずれも「抗アミロイドβ抗体」です。これまでの抗認知症薬とは異なり、アルツハイマー型認知症（アルツハイマー病）の原因とされる脳内にたまった「アミロイドβ」を取り除くことで、病気の進行を遅らせることが期待されています。

使用にあたっては、アルツハイマー病による軽度認知障害か軽度の認知症であること、かつ心理検査やMRI、PET（脳画像機能検査）あるいは脳脊髄液検査を行い、いくつかの条件を満たさなければなりません。治療は2週間あるいは4週間ごとに通院での点滴を行います。また脳出血や脳浮腫などの副作用がないか定期的なMRI検査も必要です。新たな選択肢の登場に期待はふくらみますが、根治的な治療ではありません。また脳出血などの副作用の可能性にも注意が必要です。

この治療を受けるにあたっては、受けられる方ご自身が、自分がどのような効果を期待して、どんな副作用がありえるのか、費用や治療期間などをしっかりと理解し納得するプロセスを大切にしなければなりません。



顔が見える医療を ③4



事務部 久山 典子

皆さま、こんにちは。5月18日付で林病院から異動してまいりました、事務部の久山典子です。

私は2008年4月に林法人に入職し、これまで林病院の医局事務、看護部事務、庶務課、医事課を経てこの度、岡山ひだまりの里病院への配属となりました。

当院に来てまず受けた印象は、「岡山市中心部から離れており、いままでいた林病院ほど規模が大きいがないため、地域の人との距離が近く、連携できている」でした。また、認知症専門病院として「患者様やご家族に寄り添った医療体制を築こう」という職員の姿に感銘を受けています。

私もその一員として少しでもお役に立てるよう、そして前任者が築き上げてきた業務をしっかりと引き継ぎ、さらに発展させていけるよう全力を尽くします。

まだ異動してきたばかりでご不便をおかけすることもあるかと思いますが、一日も早くお力になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



学会で得た学びと確信

これからも地域に根ざした認知症ケアを



6月6日～7日の2日間、東京国際フォーラムにて開催された「第27回認知症ケア学会大会」に、当院相談員の加嶋、藤原とともに参加してきました。大会では講演やシンポジウム、口頭発表、ポスター発表がありました。

私は若年認知症者・初期認知症者への支援、生活機能の維持に関する最新の知見に触れることができ、当院でも取り入れられるアイデアを多く得ることができました。また認知症の人の就労や新しい認知症観、まちづくりなど、これからのケアに活かしたい実践的な内容が盛りだくさんでした。

新たな学びを深めると同時に、「当院が日々取り組んでいるケアや活動は、どこにも引けを取らない実践ができています」ことを感じました。私は、若年認知症者・初期認知症者の当事者発信活動についてのポスター発表を行いました。自分たちの実践を形にして発表することで、目の前の患者様おひとりおひとりとの関わりに、自信と確信を持つことができたように感じています。

夜にはみんなでおいしい食事をしたり、銀座をぶらぶらしたりと、楽しみもあった2日間。ともに仕事をする先輩、後輩ともたくさん話をし、有意義な時間となりました。今回の学びを、今後の日々のケアにしっかりと還元してまいります。 相談員 山川 ちづる



📣 ホームページが新しくなりました。



当院の治療とケア、サポートの内容を充実化させました！



ホームページの閲覧はこちら



インスタも始めました！



ごあんない

岡山ひだまりの里病院

〒702-8012

岡山市南区北浦822-2

☎ 086-267-2011 FAX 086-267-2013

ホームページ <https://hidamari.hayashi-dorin.or.jp/>

《外来》

診療日時：月曜～金曜
9:00～12:30

*予約制です。まずは
お電話でご予約下さい

《認知症デイケア》

実施時間：月曜～土曜
9:30～15:30

(日曜・年末年始はお休み)

相談員、看護師、作業療法士による訪問看護を行っています。詳しくはお電話下さい。

無料低額診療事業を実施しています。
医療費でお困りの方はご相談ください。
入院中の差額ベッド料はいただいております。

